

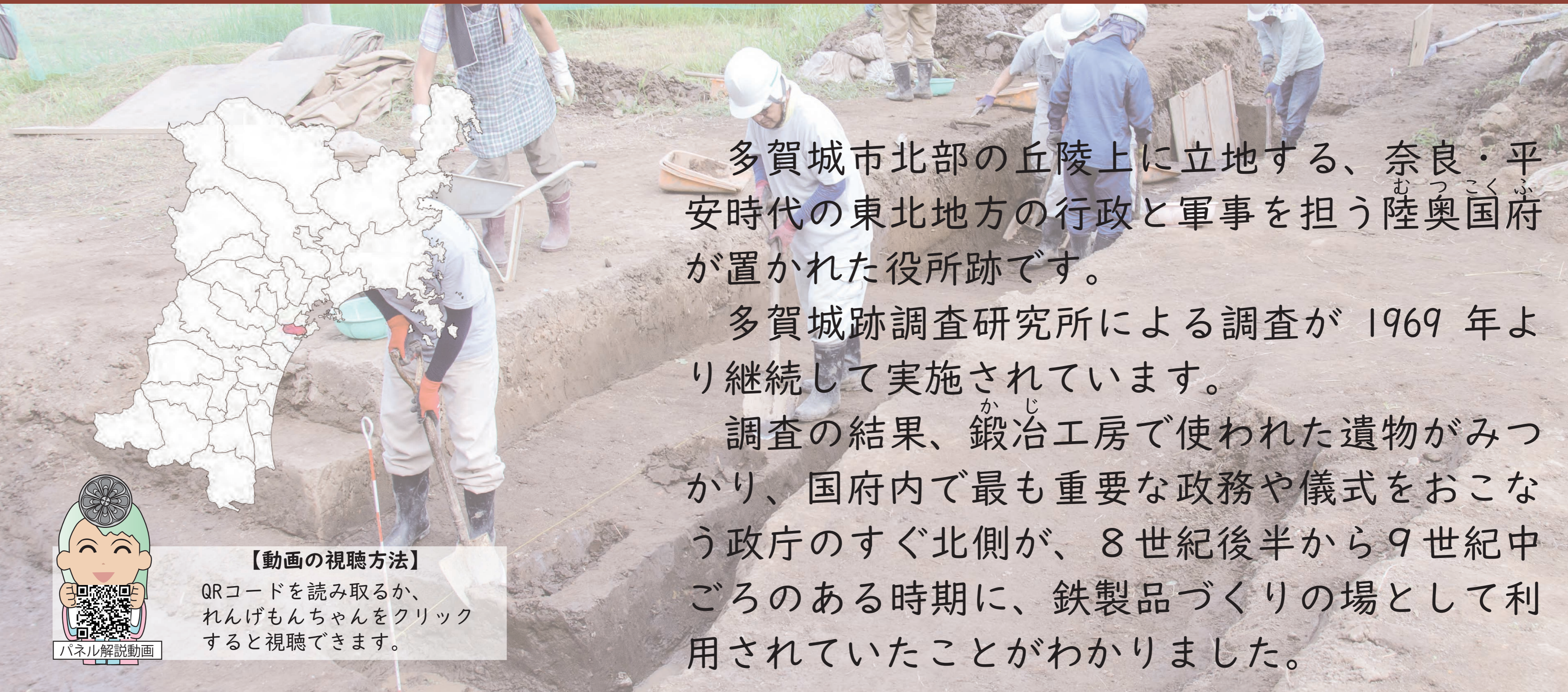


調査区遠景（北から）

# 国府を支える政庁裏のモノづくり

## ⑤国指定特別史跡 多賀城跡 附 寺跡 (多賀城市市川)

た が じょうあ と つけたり てらあと



多賀城市北部の丘陵上に立地する、奈良・平安時代の東北地方の行政と軍事を担う陸奥国府が置かれた役所跡です。

多賀城跡調査研究所による調査が1969年より継続して実施されています。

調査の結果、鍛冶工房で使われた遺物がみつき、国府内で最も重要な政務や儀式をおこなう政庁のすぐ北側が、8世紀後半から9世紀中ごろのある時期に、鉄製品づくりの場として利用されていたことがわかりました。



【動画の視聴方法】  
QRコードを読み取るか、  
れんげもんちゃんをクリック  
すると視聴できます。



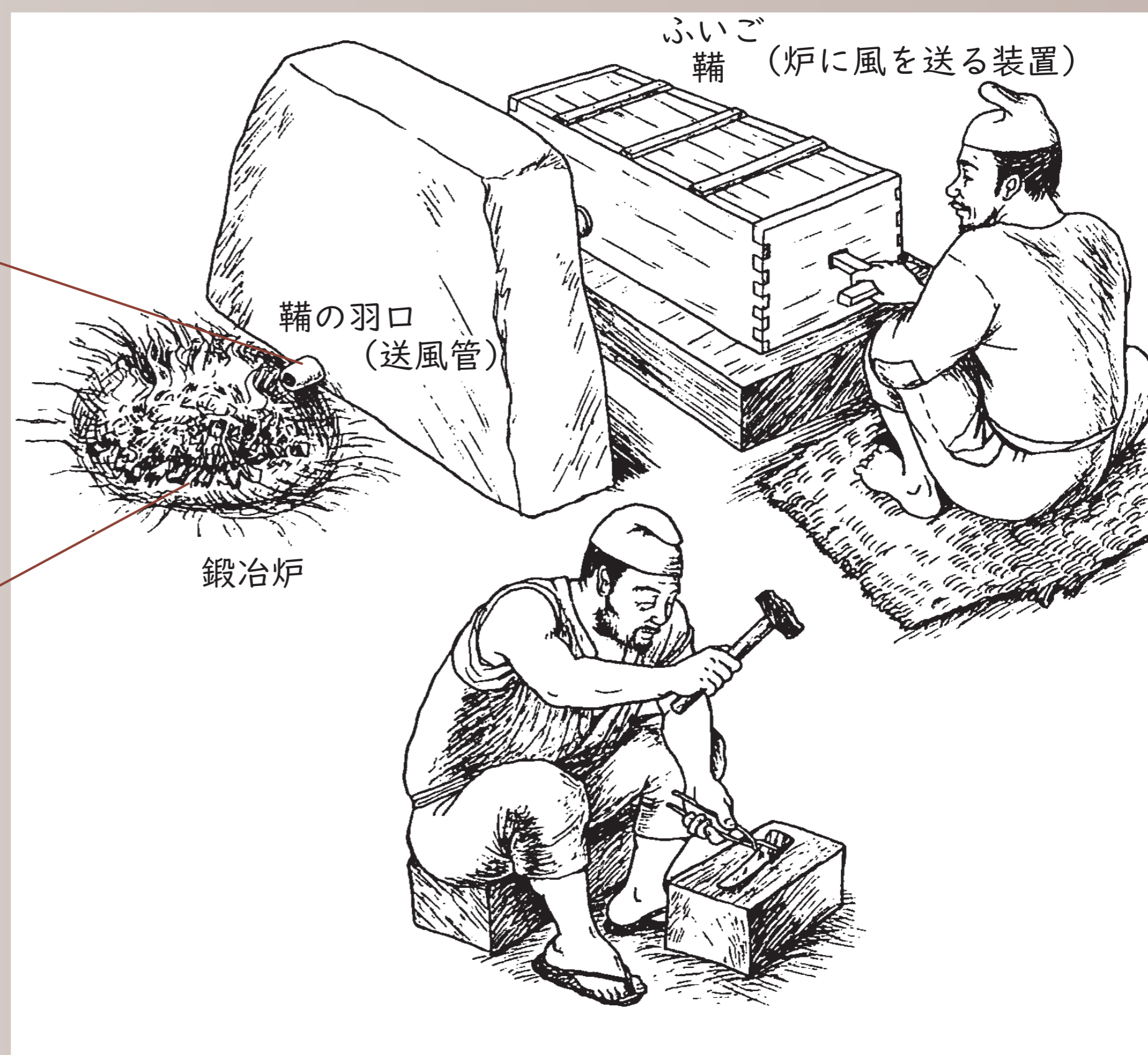
調査区北側（南東から）

てっさい かじ  
鉄滓などの鍛冶に関する遺物が  
多量の炭とともに出土しました。



はぐち  
羽口  
(先端部分)

土製の焼き物で、もとは円筒状の形をしています。



鍛冶作業イメージ図 潮見浩 1988 『技術の考古学』に一部加筆



てっさい  
鉄滓

鉄製品やその素材を高温で溶かした際、  
炉の底に溜まる不純物の塊です。



さびで覆われた鉄製品  
調査後の分析で製品の種類や形などが分かる可能性があります。

さびの下には何が隠れているんだ  
ろう。分析の結果が楽しみだね。

